RACE REPORT



SUPER FORMULA

Round.05 AUTOPOLIS

第5戦　オートポリス

2025年5月18日（日）
予選・決勝
天候：曇り　路面：ドライ

#38　阪口 晴南
予選　12番手　決勝：5位
#39　大湯 都史樹
予選　19番手　決勝：10位

5月17日（土）に開幕する予定だった全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦オートポリス。ただ、フリー走行と公式予選が予定されていた17日は朝から強い風雨と霧により、走行できない状態が続いてしまった。結果的に午前の走行がキャンセルされ、天候の回復を待ったものの、午後2時30分から予定されたフリー走行も霧が晴れずキャンセルとなってしまった。土曜のオートポリスは夜まで天候が回復することはなく、サポートレースを含めて1周もレーシングカーが走ることができない一日に。タイムスケジュールは再度変更され、5月18日（日）のワンデー開催となった。

QUALIFY 公式予選

5月18日（土） 9:40～10:20　天候：曇り　路面：ドライ
ベストタイム　#38　阪口晴南　1'27.670／#39　大湯都史樹　1'28.305

当初は5月17日(土)が予選、5月18日(日)が決勝レースというスケジュールだった第5戦。たび重なるスケジュール変更の結果、18日は午前9時40分から40分間の公式予選が行われることになった。通常のノックアウト方式と異なり、40分の間にセットアップの確認とタイムアタックをこなさなければならない。

この日のオートポリスは、早朝こそ霧が残ったものの午前8時前にはほぼ霧はなくなり、ややウエットパッチがあるが路面はドライ。気温18度／路面温度20度というコンディションとなった。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの阪口晴南と大湯都史樹は、短い走行時間のなかで少しでも上位グリッドを得るべく、コースオープンからセットアップの確認等の作業を進めていった。

ただ、この日は気温が終日低く、コンディションは難しい状況。2台はユーズドタイヤでフィーリングを確認した後、矢継ぎ早にニュータイヤを投入しアタックしていくが、「ニュータイヤを履いたときからまわりに対して劣っている感覚がありました」と阪口はあまり良いフィーリングでアタックができず。チェッカー間際のアタックもコースアウト車両が発生したことでベストタイムが抹消となり、1分27秒670というベストタイムで12番手という位置となった。そして大湯も同様に苦しい予選となっていた。

「持ち込みのセットアップが外れていて、ニュータイヤを履いてアタックすると厳しかったです。セットアップを改良していっても一時は悪い方になってしまったり、時間が足りませんでしたね」と大湯は予選を振り返った。

最後のアタックもベストタイム抹消となってしまい、結果的には1分28秒305がベストに。19番手というグリッド位置となってしまった。



RACE

決勝レース

5月18日（日） 14:42～15:53 天候：曇り 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'30.652（32L）／#39 大湯都史樹 1'30.869（13L）



公式予選終了から４時間強のインターバルで迎えた第５戦の決勝レース。直前のウォームアップでは小雨も舞い、ふたたび霧がわずかにかかるなど不安定なコンディションとなったオートポリスだが、幸い午後２時42分からの決勝レースは気温17度／路面温度20度というドライコンディションの下でスタートを切った。

予選で苦戦を強いられたSANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、２台ともにレースまでの間にセットアップを変更。阪口はスタートを決め、オープニングラップを10番手で終えると、４周目までにひとつずつポジションを上げ７番手につけた。

一方の大湯は19番手と下位からのスタートだったこと、さらに「最近スタートに問題がある」という状況から、１周目は20番手。ただ、そこから大湯は次々とオーバーテイクを決め、ポジションを上げていくことに成功した。

雨が舞いはじめる天気予報もあり、ピットインのタイミングも難しい状況ではあったが、チームは集団の中での戦いを強いられていた大湯を11周目にピットに戻す。ピットアウト後、大湯は13周目に１分30秒869というベストタイムを記録すると、持ち込みのセットアップから改良を重ねてきた車両は好パフォーマンスを発揮。オーバーテイクが難しいと言われるオートポリスながら、さらにグイグイと順位を上げていった。

そして阪口も公式予選後のセットアップ変更が功を奏し、良好なペースでレース中盤戦を戦っていくと、他車のピットインにともない15周目には５番手、19周目には３番手までポジションを上げていった。

そんななか、20周目に４番手を走っていた#4 ザック・オサリバンがコースアウト。グラベルに停止してしまい、レースはセーフティカーランとなった。すでに阪口のためにピットインの用意をしていたチームは、この機を逃さず阪口を呼び戻した。

25周目のリスタート時、阪口は８番手につけていたが、ここからフレッシュタイヤの恩恵を活かし#7 小林可夢偉、#5 牧野任祐を相次いでオーバーテイク。その後、トップ４の集団を追っていったものの、これには届かず、阪口は５位でフィニッシュすることになった。

そして大湯も、セーフティカーラン後タイヤの消耗に苦しむライバルたちを追い抜いていった。27周目には13番手、30周目には12番手に浮上すると、36周目には11番手に。さらにファイナルラップには#20 高星明誠をかわし、10位１ポイントをもぎ取った。

公式予選では思わぬ苦戦を強いられたふたりだったが、決勝では今後に繋がるパフォーマンスをみせ、２台が入賞を果たした。チームは次大会に向けて行われる富士スピードウェイでのテストで、予選でのパフォーマンス改善を目指す。





COMMENTS ドライバー／監督コメント



38　阪口 晴南　SENA SAKAGUCHI

「気温も低く、難しい公式予選になりましたね。走りづらさがあり、チーム２台ともに苦戦し取り返せないままの予選となってしまいました。ただ決勝はスタートも良く、その後のペースもとても良かったです。戦略もうまくいきましたね。とはいえ、ペースがあるからこそ戦略の幅ももてると思うので、結果的に良いレースになりました。レース終盤も盛り返すことができましたし、バランスも良かったので次戦以降がすごく明るい展望になるレースだったと思いますね。大湯選手もレースは速かったですし、２台揃って好転しているのは、チームとして答え合わせができているということです。次大会の富士は事前にテストもありますし、有効に使って中盤戦頑張りたいですね」



39　大湯 都史樹　TOSHIKI OYU

「タイム抹消があったとはいえ、公式予選では持ち込みのセットアップが悪く下位に沈んでしまいました。ただ、決勝レースに向けたセットアップ変更がうまくいき、ペース自体は良かったです。ただスタートはこのところ問題があり、集団に埋もれてしまったほか、あまり良い作戦を採ることができなかったので、難しいレースとなってしまいましたね。そんななか終盤追い上げることができましたし、自力でオーバーテイクすることができたので、その点はとてもポジティブだと思います。今回そういう実績を作ることができたのは良かったですね。とはいえ予選のパフォーマンスは課題です。チームとしても足りないところはあるので、課題の解決に取り組んでいきたいです」



立川 祐路 監督　YUJI TACHIKAWA

「土曜は天候不良で、日曜の午前にぶっつけ本番の公式予選となりましたが、２台がやや苦戦した予選となりましたね。特に大湯選手は 19 番手と下位に沈む状況になってしまいました。ただ、決勝レースでは２台がともに順位を上げてくれましたし、阪口選手は展開も味方にして５位まで挽回、大湯選手もポイントを獲ってくれました。しかし結果的に予選順位が決勝の順位にも響くかたちになってしまったので、次戦以降は予選で前のグリッドを得られるようにしたいと思います。次戦の舞台は富士スピードウェイですが、その前に公式テストもありますし、この機会にチーム全体がしっかりとレベルアップして臨みたいと思っています。応援ありがとうございました！」





INGINGMOTORSPORT

RESULT リザルト

第5戦オートポリス　決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	1	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'24.070	
2	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'25.174	2.656
3	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'28.464	3.772
4	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'30.342	9.748
5	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'37.353	14.933
6	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'55.939	19.107
7	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'57.365	21.343
8	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:07'58.822	23.600
9	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:07'59.936	32.772
10	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:08'00.264	32.997
11	20	高星明誠	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:08'00.769	34.081
12	28	小高一斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:08'01.156	34.766
13	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:08'03.192	37.525
14	19	O. ラスムッセン	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:08'06.415	43.982
15	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:08'07.534	48.598
16	29	平良響	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:08'08.412	51.167
17	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:08'09.751	57.896
18	12	三宅淳詞	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:08'12.558	58.654
19	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:08'18.303	1'09.390
20	50	小出峻	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:08'21.539	5Laps
			以上完走				
	15	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	26	44'37.009	
	4	Z. オサリバン	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	18	27'54.621	

ドライバーランキング（上位）

Rank.	No.	Driver	Total
1	5	牧野任祐	65
2	6	太田格之進	61
3	36	坪井翔	51
4	15	岩佐歩夢	41
5	16	野尻智紀	39
6	64	佐藤蓮	24
7	65	I. オオムラ・フラガ	23
8	3	山下健太	22
9	38	阪口晴南	22
10	7	小林可夢偉	13
12	39	大湯都史樹	9

チームランキング

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	116
2	TEAM MUGEN	67
3	VANTELIN TEAM TOM'S	62
4	PONOS NAKAJIMA RACING	46
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO·INGING	31
6	Kids com Team KCMG	23
7	KONDO RACING	20
8	docomo business ROOKIE	7
9	San-Ei Gen with B-Max	3